

あかるく かしこく たくましく

令和5年5月2日 No. 6 文責：校長 佐野紳二

小笠原小学校の歴史② 小笠原小学校の校歌

創立 150 周年を迎える小笠原小学校の歴史について調べるシリーズ（いつの間にかシリーズ化していますが…）第2弾！ということで、今回は本校の校歌について調べてみました。

小笠原小学校校歌

- 1 山は招くよ 櫛形の
春の芽ばえに映りはえて
町なみつづく 小笠原
たのし床しい学びの舎
- 2 寄せる文化の 波の秀に
われらいそしむ明け暮れを
友愛かたく 手をとりにて
明日の日本をきずこうよ
- 3 ひびけ歌声 高らかに
とびけ世界のはてまでも
愛する故郷 小笠原
希望あふれる わが母校

本校の校歌は昭和 27 年 10 月 16 日に完成し、披露されたという記録が残っています。前回は紹介させていただいた本校の 100 周年記念誌を見ると、この日は運動会が行われ、その当日に校歌が披露されたそうです。作詞は向井房恵（ふさはる）さん、作曲は平井康三郎さんで、校歌制定以来 70 年の長きにわたって親しまれています。

私も教頭・校長で赴任した学校の他の学校の校歌は在任期間が短かったこともあり、歌詞を見ないと歌えませんが、小笠原小学校の校歌はしっかり歌えます！70 年前に作られた校歌なので、ちょっと難しい言葉も使われていたりします。なので、自分なりに本校の校歌に歌われていることをちょっと調べてみました。

多くの校歌がそうであるように、本校の校歌も 1 番から 3 番まであります。

「山は招くよ」で始まる 1 番は、この地域に様子について歌われています。自然の美しさだけでなく「町なみつづく」という歌詞が、小笠原という地域をよく表しているように思います。



「ひびけ歌声」で始まる 3 番は、未来や世界に向かっていく姿が歌われています。（伴奏譜を見ると、この 3 番だけちょっと豪華な伴奏になっています。1・2 番と同じ伴奏で弾くことも多いようです）

ちょっと難しいのが、2 番の前半「波の秀」や「われらいそしむ明け暮れを」の部分でしょうか。なので、一語ずつ調べてみました。

波の秀の「秀」は「外形が人目につきやすく突き出ていること。」という意味なので、小笠原の地に最先端の素晴らしい文化の波が訪れている様子を歌っているように思われます。そして、その素晴らしい文化に「われらいそしむ明け暮れを＝絶えず熱心に勤め励む」ということなので、子どもたちが学習に熱心に取り組む様子を歌っていると考えてよいのではないのでしょうか。

なので、2 番の歌詞を今風に訳してみると「一生懸命勉強し、みんなで力を合わせて明日の日本を創っていこう」ということになるのかな、と思います。

かなり意識をしています。「そうじゃないだろう」というご意見がありましたら是非お聞かせください。



校歌の作詞・作曲者について

本校の校歌を作詞した向井房恵（ふさはる）さんは今の北杜市高根町の出身で、広島や山梨の師範学校の先生をされたあと谷村工商校長、甲府市助役、県の教育委員長などさまざまな役職を歴任し、県の教育功労者となった方です。本校をはじめ数多くの学校（貢川小や玉諸小・双葉西小・明見小・ろう学校など）の校歌の作詞をされています。

作曲の平井康三郎さんは高知県の出身で、東京音楽学校（今の東京芸術大）を卒業し、「スキー」や「とんぼのめがね」などの童謡や数多くの管弦楽・室内楽などの作曲をされた方です。千葉大学や茨城大学などの大学や日本全国の小・中学校、高校の校歌（山梨では梨大附属中や甲府西高など）も作曲しています。



向井さん、平井さんともに当時はとても人気がある作詞家・作曲家だったようです。本校にとってはお二人とも大切な方ですが、平井さんは WIKI ペディアに掲載されているくらい、日本の作曲家の中でもかなり有名な方です。

校歌ができる前にも小笠原小学校の歌があった

同じくらいの歴史を持つ学校の校歌を見てみると、本校の校歌よりも前に作られたものが少なくありません。本校では開校以来、約 80 年間、校歌がなかったわけですが、これにはどうやら理由があり、校歌制定以前は「運動会の歌」が校歌の代わりに歌われていたようです。この「運動会の歌」は 1 番から 6 番までありますが、1 番の歌詞を見ると「残んの暑さ 何時しかに／薄らぎ去りて 心地よき／秋晴朗の 気は満ちて／意気冲天の 時は来ぬ」と、口語調の言葉が使われています。

校歌が制定されて以来、口語調の「運動会の歌」は歌われる機会が減ってしまったようですが、（本校が母校のベテラン教師に聞いても、「運動会の歌」は記憶にないとのことでした）創立 150 年を迎えた今年、何らかの形で「運動会の歌」もみなさんに紹介できればいいなあ…と思っています。

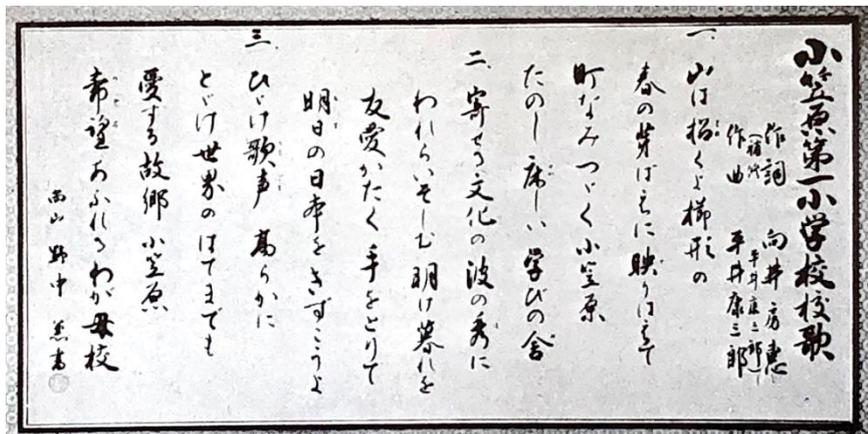
自分の出身校の校歌にはそれぞれ思い入れがあり、学校生活の思い出とともにいつになっても口ずさむことができる大切な歌なのだと思います。私が小学校を卒業したのは今から 45 年以上前になりますが、こんな私でも、今でも母校（小学校）の校歌は歌詞を見なくても 3 番まで歌えます。

中学校・高校の校歌も 1 番はバッチリ！ 2 番以降はちょっと自信がないかも…

出身大学には校歌ではなく、学生歌があるようですが、歌った記憶は…

また、これまでに教員として勤務した学校は 9 校ほどありますが、歌詞を見ずに歌えるのは 2 校くらいかも…

小笠原小学校の校歌は覚えやすく、曲調も明るく、とてもステキな校歌だと思います。ぜひ、子どもたちにも大切にしてほしいと思いますし、今後も 200 周年、250 周年…とずっと歌い継がれていってほしいと願っています。



小笠原小学校には、古い書や石碑看板などがたくさん残されていますが、この校歌の書はどうやら現在は残っていないようです。

次回、小笠原小学校の歴史を調べるシリーズ第 3 弾では、学校に残っている書や石碑、像について調べてみたいと思っています。

予定が変更になる可能性もあり?!